



日進北小だより

令和7年10月31日 11月号 第8号

電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<https://nissinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～自分一 すてきなあいさつ 日北っ子～



児童の学校生活の様子を、
随時更新し掲載しています。
どうぞ、ご覧ください。

おかげさまの心 ～「自分一」を超えた先に～

校長 寺越 崇征

10月18日（土）、早朝から気持ちのよい秋晴れとなり、今年度も運動会を開催することができました。今年の運動会スローガンは「限界突破 自分一を超えていこう！」。多くの保護者の皆様、地域の皆様、来賓の皆様からの温かい声援に包まれて、子どもたちは練習の成果を存分に発揮し、成長した姿を披露することができました。また、当日の準備および運営において、PTA役員やボランティアの皆様、おやじかい！の皆様に多大なるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。



今年度は、昨年度のアンケート結果をもとに、3つの学年で徒競走を行わずに団体競技（玉入れ、台風の目、綱引き）を行いました。これらは練習によって技能を高める種目ではないので、徒競走のような「体力の向上」という効果は高くないかもしれません。ですが、これらの競技を見ていると「運動会って、こうだよなあ」という感じが湧き上がってきました。



久しぶりの玉入れ！

（私自身の感覚が古いのかもしれません…。）ともあれ、子どもたちは楽しそうに競技に取り組んでいましたし、運動会のねらいのひとつである「運動に親しむ態度の育成」はできたのではないかと思います。様々なご意見はあるかと思いますが、すべての学年が団体競技を経験できるようにするため、来年度の運動会も同様の形態で実施します。ご理解いただきますよう、お願ひいたします。

ところで、運動会にはもう一つ大切なねらいがあります。それは「責任感や連帯感の涵養」です。涵養というのは、水がしみこむように、無理なく少しずつ養い育てることです。毎年、5・6年生は全員が役割をもって運動会の運営を支えます。「応援係」「開・閉会式係」のように、みんなの前に立って全校をリードする仕事もあれば、「決勝係」「児童係」のように、目立たないけど大切な縁の下の力持的な仕事もあります。この個々に与えられた役割を果たすことで、運動会全体の運営が成り立つという経験が大事です。自分がいくら頑張っても、一人では運動会を運営することはできません。全員がそれぞれの役割を頑張っているからこそ、運動会が成り立ち、そうして自分の頑張りも意味をもつ。これが責任を果たすということなのです。同じように、全学年の全児童が「自分一を超える頑張り」を発揮してくれたからこそ、みんなで一つの素晴らしい演技を作りだすことができました。これが連帯です。運動会が無事運営できたのは「すべての5・6年生一人ひとりのおかげ」ですし、運動会が盛り上がって成功したのは「すべての日北っ子一人ひとりのおかげ」です。



力を合わせて会場づくり

この1か月間、「自分一を超えていこう」というスローガンを掲げ、それぞれの子どもたちは練習に取り組んできました。そして当日も本当に頑張ったと思います。個々に努力を続けたその姿は心から讃えたいと思います。そのうえで、自分一を超えた先に見える世界で、「自分一を超えるほど頑張ったのは、友達も頑張っていたおかげ」ということに気付いてくれていたら嬉しく思います。この気付きはやがて、あらゆる他者を価値のある存在として尊重することにつながり、様々な社会的な変化を乗り越えて、持続可能な社会の創り手となるために大きな力になることでしょう。

今のクラスでの学校生活も残り5か月、すべての日北っ子がたくさんの「自分一を超える」挑戦をしていくことで、すべての教室にたくさんの「おかげ」が溢れるといいなと思います。頑張れ、日北っ子！！